

## 平成22年度干潟的環境形成試験（砂移動試験）計画修正の概要

	当初	案の1	案の2
概 要	2ヶ月間を集中的に調査し、その後は四季的な調査として3ヶ月後及び6ヶ月後の調査を実施する。	本年度の調査期間を2ヶ月間とするとともに、砂移動調査・波浪調査の期間を縮減する。 また、生物的項目については、検体数を削減の上、開始時の状況及び2ヶ月後の状況の調査する。	砂移動調査としては調査期間を2ヶ月間とした上で、蛍光砂による砂移動調査の削減・波浪調査期間の縮減を行う。 生物的項目については、検体数、調査回数等の一部削減を行った上で、四季的な調査として6ヶ月後の調査も実施する。
地盤高の調査(測量調査)	2ヶ月間を集中的に調査 その後は四季的に調査 試験区周辺も含め20m×20mを1mメッシュで測量	四季的調査は見送る。(3ヶ月、6ヶ月を削減) 試験区周囲は2mメッシュとし、試験区内(10m×10m)は1mメッシュでの測量とする。	同左
移動方向調査(蛍光砂調査)	調査期間:2週間	調査期間:1週間	実施しない
波浪調査(波高計、石膏球)	波高計設置:2ヶ月 石膏球:3回	波高計設置:2週間 石膏球:2回	同左
底質調査(採泥調査)	採泥地点:8地点	採泥地点:4地点(6ヶ月後は削減)	同左
水質調査	現地調査に合わせ実施(13回)	現地調査に合わせ実施(8回)	同左
底生生物(目視・採泥調査)	目視調査:コードラート 採泥調査:試験区内及び周辺3地点づつ アサリ等の代表的生物及びその他 検体を保存	目視調査:コードラート 採泥調査:試験区内のみ3地点 アサリ等の代表的生物 検体を保存しない	同左
	試験区:開始時、1週間、2週間、1ヶ月、2ヶ月、 四季的調査(3、6ヶ月) 対照区:開始時、四季的調査	試験区:開始時、2ヶ月、 対照区:開始時、2ヶ月後	試験区:開始時、1ヶ月、2ヶ月、6ヶ月後 対照区:開始時、2ヶ月後、6ヶ月後
その他		解析業務は最小限とする	同左